

京都の路地は奥に深いです

空と窓と、

Tou



昨日からつづく雨が、あがりかけています。
でも、傘がないと少し不安な空模様。

今日は弘法市の日です。



東寺の境内に納まりきれない店が、門からはみ出しています。



雨模様なので、今日はお店の数も少なめだと言う声が聞こえてきましたが、それでも溢れているのですから、これで天気がよかったら、どんなだったのでしょうか。

見たくありません。



先ほどの門から一歩中に入りました。
午前中の早い時間だったのでこんなものですが、
これから午後に向かって、人が増えて行きます。

ちなみに、朝5時開店です。。。寝てる。



外国の方も沢山お見えです。
なんだか、わけのわからんものが一杯並んでいます。
わたしの目には無価値な物も多いです。

弘法市の方は、骨董だけでなく、衣類や食品、生活用具など
なんでもあります。触ってはいけない服もあります。

最近増えて来た手作り市とは違い、みなさん、実店舗をお持ちの商売人です。



地面と商品の高度の差がブルーシート一枚という、見ようによっては哲学的な。

そして手前から奥、ブルーシートから衣装ケースと位置関係が
変わるにより、価格帯が低→高と変化する、紫禁城のヒエラルキーにも
似たこの構図。

なにげに置いてありますが、豆皿ブームですから。

1枚千円からとか、そんなかんじなんでしょう。



ようお参り。



美味しそうですが、この日は食料品は買いませんでした。
敢えて、此処で買わなくてもいいので（笑）



金魚すくい、わかるか？
世界に類を見ない、日本独特のゲームですよ。



大徳寺に向かいます。

京都観光は、市バスの一乗車券が便利でお得です。

路線図を読み、乗り換える楽しさもあります。タクシーではこうはいきません。



大徳寺の門前です。
大徳寺も立派ですが、門前のお店も立派です。

精進料理は、東林院でいただきましたが、
1回食べればそれでいいかな。



読んでるこっちが恐縮してしまいます。



髪飾りの専門店。

こういうのが、さらっとあるところが京都なんですよねえ。



”はふはふ、何かありますよご主人様。”



東山に月、ですね。

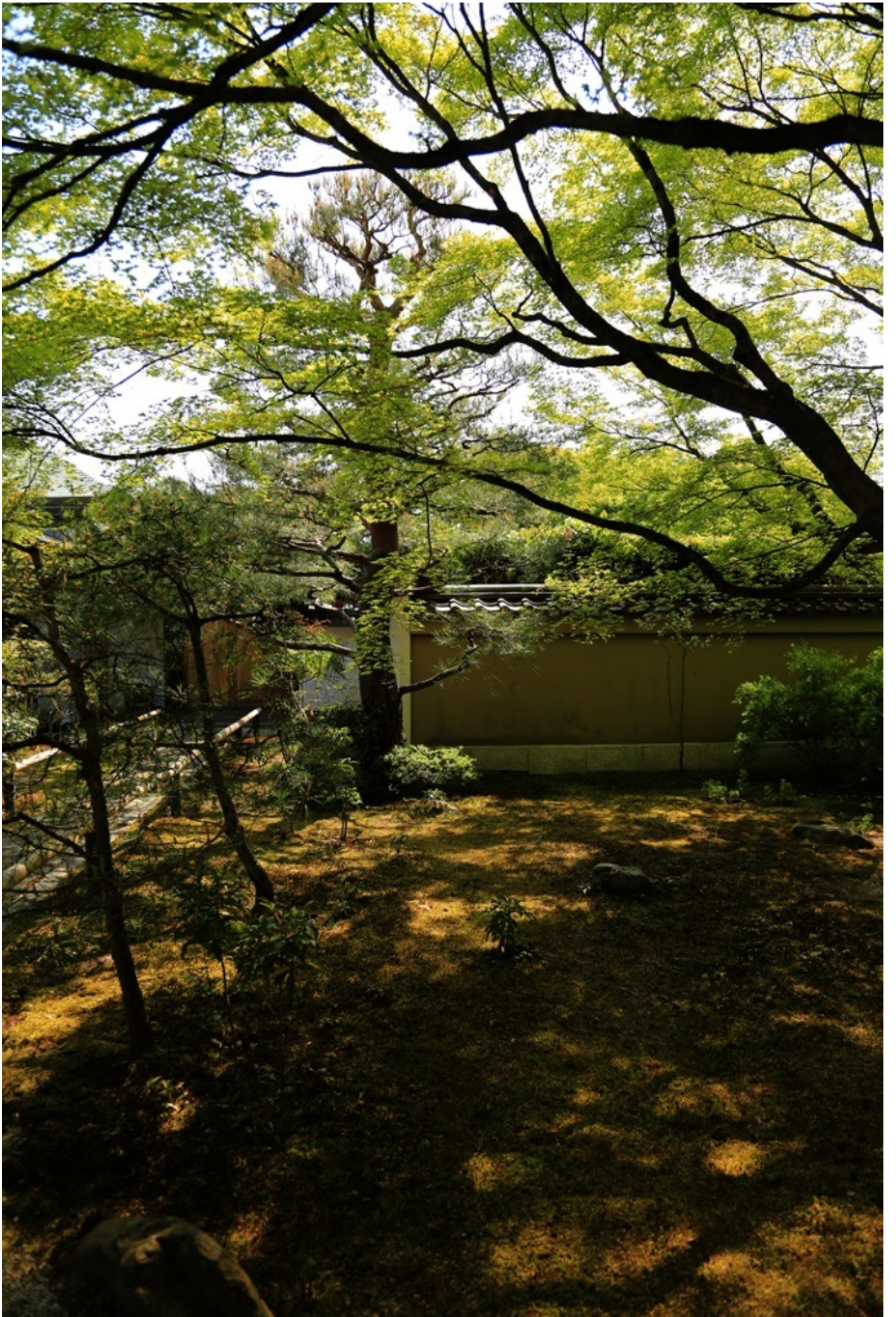


大徳寺に入ります。
石畳を見ただけで、このお寺がどれだけの
財力をもっているかわかります。









新緑、奇麗です。

桜の季節には、京都は観光客で溢れかえるんですが、
それが終わるとええ具合に落ち着いてしまうので、
「青もみじ」を売りに観光キャンペーンをやっています。

いや、別に、静かでもいいんですけど、、、。



松の花

こうやって写真に撮るとちょっとした風情なんですが、
この日は天気がよくて、気温も上昇気味。

ということは、花粉日和。

空気が色がかわるところ、初めて見ました。
小麦粉の袋を開けて振り回したら、あんな感じかもしれません。



この金具。何百年もののでしょうか。



大徳寺三門

これが例の利休事件の三門か、と思うとちょっと受ける印象もかわります。

が、多分あれは嘘。

本当だったら、この三門。取り壊されているでしょう。



別院、塔頭が24もあるんですが、殆ど非公開です。
どこもそうなんですが、個人の私邸ということですね。
お寺に行っても、宗教的対話を期待してはいけない、ということです。



うん。この樁の落ちっぷり。
いけてます。



三門の裏手。
近くにすら寄れません。

フランスの教会では、こんなところありませんでしたけどね。



本堂の天井

彩色がされていますが、退色が激しくてよくわかりません。

飛天のようなものが描かれているのではとおもいます。

カメラなのである程度写っていますが、本当は暗くてよく見えない、
というのが実態です。

石畳を綺麗にするより、こう言うところを補修すべきと思います。



これも暗くてよく見えません。
ああ、こんな風になってたのか。



青竹、見事で綺麗ですが、
立ち入ることまかりならぬ、という棒です。
弁慶棒とでも名付けましょうか。













体験座禅をやっていたようです。
修学旅行か新入生かどっちかだと思います。
おつかれさん。

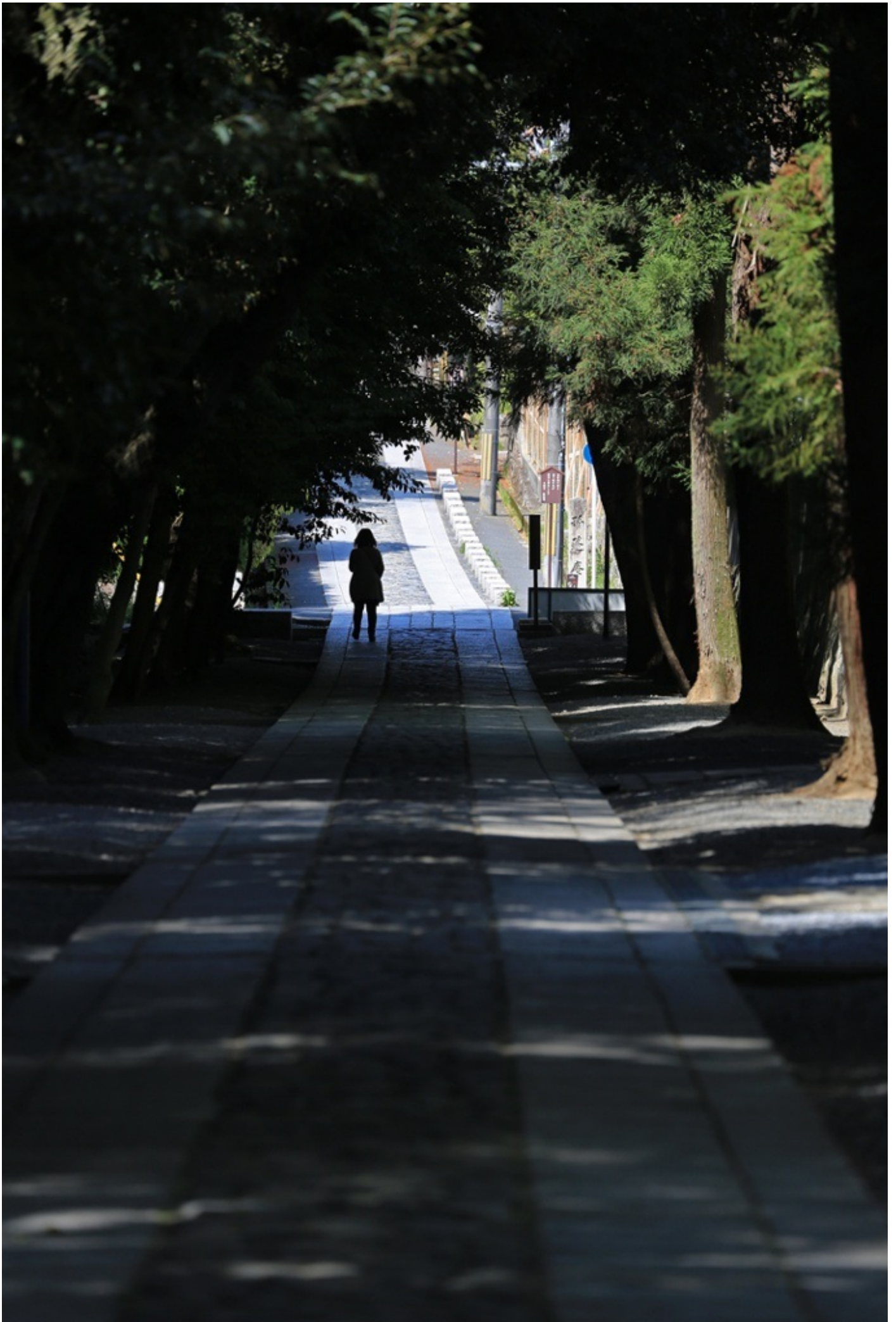




太い。この寺の経済力が・・・。



スズメも丸まると。







旅人の喉を潤す、振る舞いの茶です。助かります。
知恩院にもありました。あっちは給茶器でしたけど。



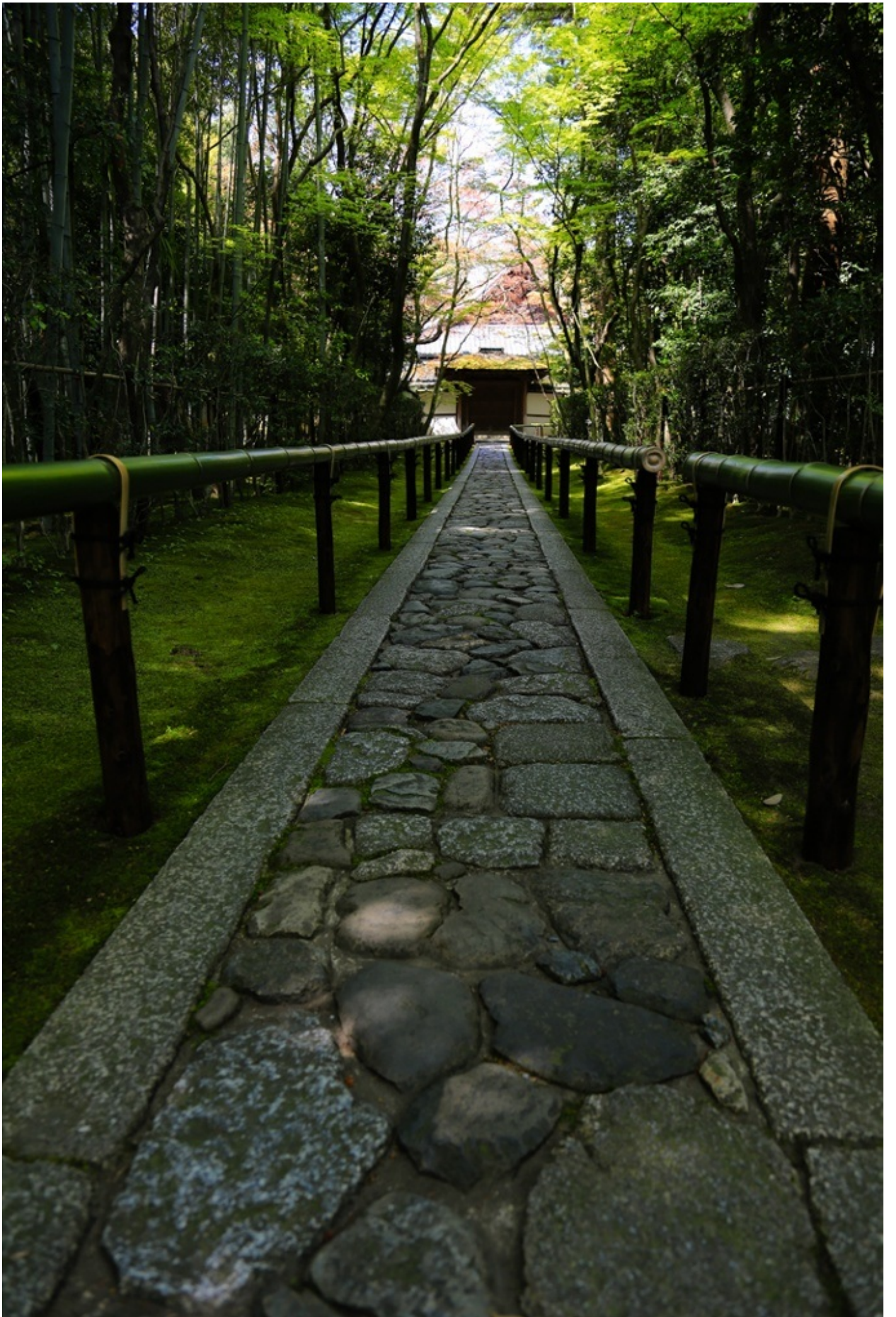
庭を拝観出来る塔頭が二つあり、そのうちの一つに入りかけたんですが、
写真撮影禁止なので止めました。

以前は、あまり気にしなかったんですが、フランス旅行で
そういう目にあわなかったので、どっちが正しいのかと考えたとき
フランス式が正しいのでは、と思ったからです。

遠くの国からやってきた旅行者に対して、理由も説明しないで
撮影禁止を言い渡している受付の人に、違和感を覚えました。

”おもてなしの国”が聞いてあきれ、と。









大徳寺の境内はよく整備され、美しいところですが、
本堂の天井画ははげ落ちたままで、放ったらかしです。

立ち入り禁止の塔頭の門からかいま見える庭は、手入れが行き届いています。
でも、中には入れてもらえません。

人間に例えれば、外面は奇麗ですが、内面はなに考えているかよく分からない人。
おそらく自分は特権階級の人間であるとも思っているんでしょう。
この美しい寺は、自分がこの世にあるうちだけの預かり物である
ということが分かっていない。

そして、衆生を救済することなどどうでも良いのです。

とても美しいけれど、くそったれな寺ですね。



大徳寺の少し北に今宮神社があります。
おとなりに、神社の付属幼稚園があります。
近くに老人ホームがあり、そこの方と園児たちとは顔見知りのようで、
そういう地域との結びつきの雰囲気のある神社です。



狛犬の口の中にヤモリがいます。
住処なんですか。

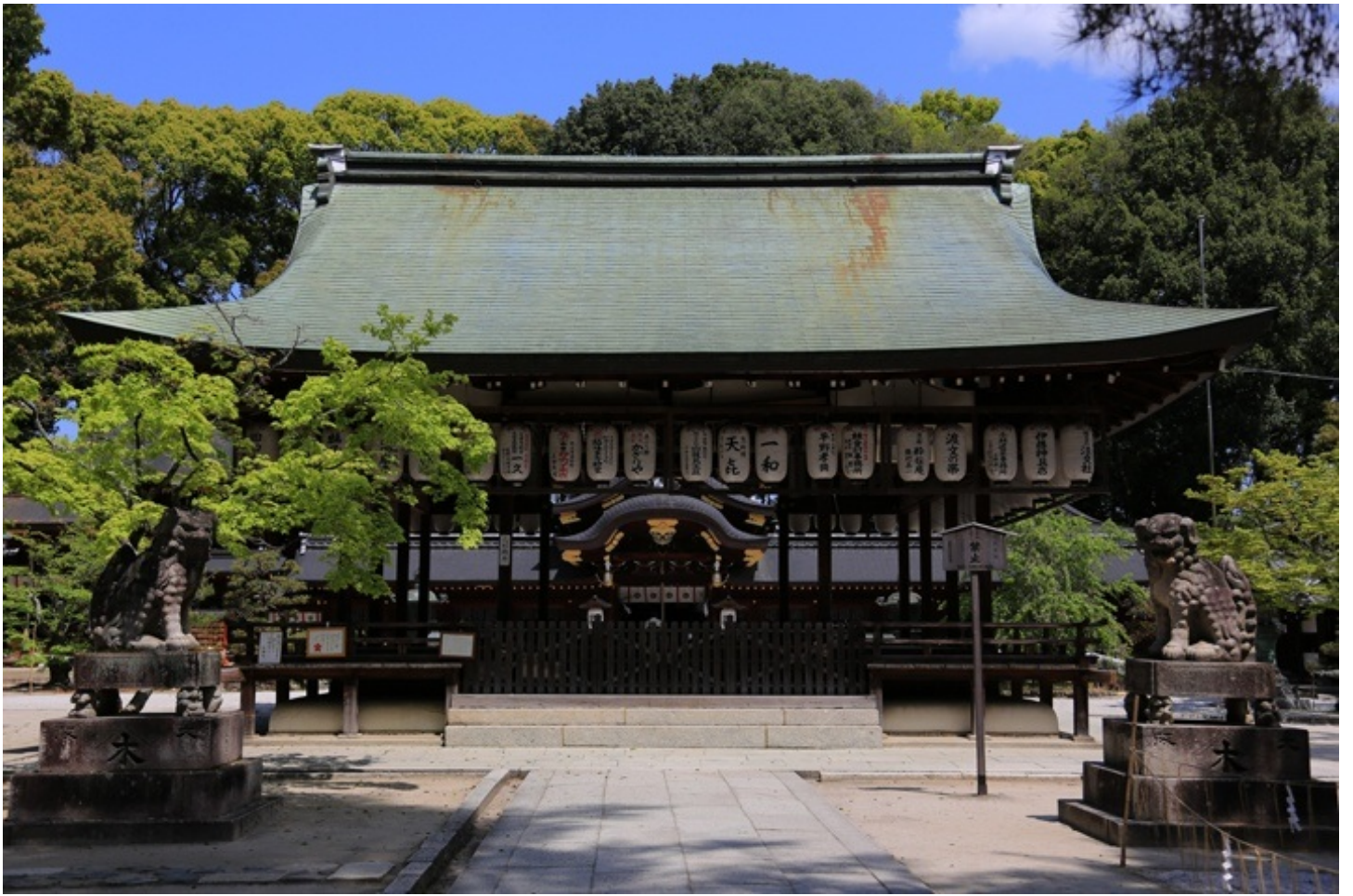


朱、黄、白、黒
くっきりとして美しい。
変な言い方ですが、神様っぽい。



今宮神社の中にある月読社

生まれ育ったところには、こんなに大きな神社がなかったので、神社の中に、さらに立派な神社があるというのにいつも驚きます。





本殿前の拝殿の内側に、おそらく36歌仙の歌と絵が飾られていました。
状態からすると、新しい物と思われます。由来も特にありませんでした。
詩仙堂のが有名ですが、、、客寄せだろうな。

一番左は、平安京アイドル。小野小町です。







東の口から出て、振り返ったところですが、
門の向こうが白く見えるのは、光の加減とかではなくて
花粉（主に松）のせいです。

少し風のある日だったので、風が吹くたびに、
カメラに白い点々がついて、ああ、服も花粉だらけなんだろうなと
ぞっとしました。

毛虫状の花の房も千切れて飛んで来るし。



有名なあぶり餅のお店ですが、オヤスミでした。
戸板のところに白いゴミのような点々がみえますが、
これがその毛虫状の花の房です。



空と雲と窓と。

「passer un après-midi 3 午後の過ごし方」 <http://p.booklog.jp/book/86112>
 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです Qu」 <http://p.booklog.jp/book/85799>
 「passer un après-midi 2 午後の過ごし方」 <http://p.booklog.jp/book/85513>
 Photo「空と雪と、京都の路地は奥に深いです nYa」 <http://p.booklog.jp/book/85209>
 「passer un après-midi 午後の過ごし方」 <http://p.booklog.jp/book/84911>
 「Travelogue ep.02 桜巡り」 <http://p.booklog.jp/book/84667>
 「黄金の麦畑」
 1.Largo <http://p.booklog.jp/book/58662>
 2.Allegro molto <http://p.booklog.jp/book/83865>
 3.Adajo (連載中)
 「黄昏の王国」
 イーリアス編 <http://p.booklog.jp/book/49612>
 アリシア編 <http://p.booklog.jp/book/51254>
 Photo「空と雪と、京都の路地は奥に深いです na」 <http://p.booklog.jp/book/84165>
 Photo「空と雪と、京都の路地は奥に深いです mu」 <http://p.booklog.jp/book/83952>
 「Travelogue ep.01」 <http://p.booklog.jp/book/83694>
 Photo「Hina」 <http://p.booklog.jp/book/83499>
 Photo「空と雪と、京都の路地は奥に深いです itu」 <http://p.booklog.jp/book/82880>
 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです yo」 <http://p.booklog.jp/book/82643>
 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです mi」 <http://p.booklog.jp/book/82160>
 Photo「からくれないに ni」 <http://p.booklog.jp/book/81713>
 Photo「bleu, jaune, vermillon」 <http://p.booklog.jp/book/81111>
 Photo「H.45」 <http://p.booklog.jp/book/80229>
 Photo「Fly mè to Paris I～XIV」
 Photo「祇王 こけのさるも」 <http://p.booklog.jp/book/74864>
 Photo「空と雨と6月と」 <http://p.booklog.jp/book/74060>
 小説
 「ネガティブズ2」 <http://p.booklog.jp/book/73051>
 「ネガティブズ」
 Photo「空と僕と自転車とni」 <http://p.booklog.jp/book/72996>
 Photo「空と僕と自転車と」 <http://p.booklog.jp/book/72092>
 Photo「空と椿と木蓮と、そして花水木」 <http://p.booklog.jp/book/71344>
 Photo「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」 <http://p.booklog.jp/book/70700>
 Photo「空と雲と、ときどき春の野を行く」 <http://p.booklog.jp/book/70137>
 Photo「空と月と、夜桜デート」 <http://p.booklog.jp/book/69415>
 Photo「空と木と、ときどきの梅暦」 <http://p.booklog.jp/book/68722>
 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです ni」 <http://p.booklog.jp/book/65536>
 Photo「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/64153>
 Photo「空と木とたまに月」 <http://p.booklog.jp/book/62540>
 Photo「からくれないに」 <http://p.booklog.jp/book/61473>
 Photo「空と雲と、ときどき月」 <http://p.booklog.jp/book/36294>
 Photo「夢みる桜」 <http://p.booklog.jp/book/45286>
 — 僕カノシリーズ —
 「僕が彼女に殺された理由(わけ)」 <http://p.booklog.jp/book/31906>
 「僕と彼女の選択の事由(わけ)」 <http://p.booklog.jp/book/35498>
 「僕と彼女はそれしか答えを見つけれなかった」 <http://p.booklog.jp/book/36101>
 「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」 <http://p.booklog.jp/book/36617>
 「僕と彼女と複雑な関係者たち」 <http://p.booklog.jp/book/37238>
 「僕と彼女と単純な関係式」 <http://p.booklog.jp/book/37731>
 「僕と彼女と校庭で」 <http://p.booklog.jp/book/38409>
 「僕と彼女と校庭で 夏」 <http://p.booklog.jp/book/38977>
 「僕と彼女のアリア」 <http://p.booklog.jp/book/46524>
 「僕と彼女のインベンション」 (次回)
 — その他 —
 傘がない <http://p.booklog.jp/book/69798>
 夕暮れの赤ちょうちん <http://p.booklog.jp/book/42024>
 いもうと <http://p.booklog.jp/book/40794>
 サマータイム・ブルース <http://p.booklog.jp/book/34054>
 危険なドライビングマジック <http://p.booklog.jp/book/33630>
 デフラグメント <http://p.booklog.jp/book/33116>
 インフルエンス あのころの僕たち <http://p.booklog.jp/book/32752>
 花舞い、名残り雪 <http://p.booklog.jp/book/32187>
 詞画集「ただ憧憬れだけを」 <http://p.booklog.jp/book/34472>
 画集「彼と彼女の表紙画集」 <http://p.booklog.jp/book/39345>